

当社初となる「サステナビリティボンド」を発行します

環境問題・社会課題双方の解決に資する施策に調達資金を充当

東京地下鉄株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：山村 明義、以下「東京メトロ」）は、環境問題・社会課題双方の解決に資する施策に充当する資金の調達手段として、当社初となる「サステナビリティボンド」を2020年6月に発行します。

今回のサステナビリティボンド発行は、ESGの視点も踏まえ、それらに関連する取組みをステークホルダーの皆様により一層認知していただくとともに、調達資金を環境問題・社会課題双方の解決に資する施策に充当することで、ステークホルダーの皆様とともにSDGsの達成に貢献、ひいては持続可能な社会を実現していくことを目的としています。

調達資金は、「東京メトロプラン2021」に掲げる施策のうち、丸ノ内線2000系車両の導入、ホームドアの整備及び太陽光発電システム設置に係る費用の一部に充当する予定です。

「サステナビリティボンド」の詳細は、別紙のとおりです。

調達資金を充当するプロジェクト

新型車両導入

「丸ノ内線2000系車両の導入」



駅ホームの安全性向上

「ホームドアの整備」



太陽光発電

「地上駅における太陽光発電システムの設置」



※このニュースリリースは、国土交通記者会、ときわクラブ、環境問題研究会、環境記者会にお届けしています。

この件についてのお問い合わせ先

東京メトロ 広報部広報課

財務部財務課

経営管理部サステナビリティ戦略担当

野口、山口 電話：03-3837-8277（携帯：080-1247-0114）

山川、石井

志田、河野

「サステナビリティボンド」詳細

1 発行概要

社債名称	東京地下鉄株式会社第41回社債（一般担保付） （サステナビリティボンド）
発行総額	100億円（予定）
年限	10年（予定）
発行時期	2020年6月（予定）
主幹事証券会社	みずほ証券株式会社、SMB C日興証券株式会社、大和証券株式会社
対象プロジェクト （資金使途）	新型車両導入、駅ホームの安全性向上、太陽光発電システム設置に係る費用の一部に充当予定（一部リファイナンスを含む）

※その他詳細は、決定後にお知らせいたします。

2 資金使途の詳細

本サステナビリティボンドにて調達した資金は、全額を以下の施策に充当する予定です。

対象プロジェクト	SDGs	期待される効果や導入予定等
新型車両導入 「丸ノ内線2000系 車両の導入」 	   	<p>丸ノ内線2000系車両は、最新式制御装置の導入等により従来の車両（丸ノ内線02系）と比較し、電力消費量を約27%削減し「クリーン輸送」の実現に貢献します。</p> <p>また、気象災害等による停電時に最寄駅まで走行できる非常用走行バッテリーを搭載し「気候変動への適応」の強化を図るほか、万一の脱線時に列車を自動で停止させる脱線検知装置の搭載やフリースペースの設置などにより、全てのお客様に対して安心してご利用いただける輸送サービスを提供する「基本的インフラ設備」にも資する車両です。</p> <p>2019年2月から運行を開始しており、2023年度までに全52編成を導入予定です。</p>
駅ホームの安全性向上 「ホームドアの整備」 		<p>ホームドアの整備は、線路への転落や列車との接触などのホーム上における事故防止を図り、全てのお客様に対して安心してご利用いただける輸送サービスを提供する「基本的インフラ設備」に資する施策です。</p> <p>2020年3月末時点での整備率は76%であり、2025年度末までに全駅へのホームドア整備を完了する予定です。</p>
太陽光発電 「地上駅における太陽 光発電システムの設置」 	 	<p>太陽光発電システムは、地上駅のホーム屋根等に太陽光パネルを設置し、発電した電力をエレベーターや照明などの駅設備で使用する電力の一部に使用するものです。これにより、「再生可能エネルギー」の普及拡大に貢献し、再生可能エネルギーの活用を通じてCO₂排出量の削減を図ります。</p> <p>現在9駅で同システムを稼働させており、2021年度末までに丸ノ内線四ツ谷駅及び千代田線北綾瀬駅を加えた合計11駅での稼働を予定しています。</p>

「サステナビリティボンド・フレームワーク」概要

1. サステナビリティボンド・フレームワークの策定

サステナビリティボンドの発行にあたり、国際資本市場協会（ICMA）のサステナビリティボンド・ガイドラインに定められている「調達資金の使途」「プロジェクトの評価と選定プロセス」「調達資金の管理」「レポートニング」等の方針を記載したサステナビリティボンド・フレームワークを策定しました。

2. 第三者評価（セカンドオピニオン）の取得

サステナビリティボンド・フレームワークについては、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）より、サステナビリティボンド・ガイドラインなどの原則との適合性に対する第三者評価（セカンドオピニオン）を取得しました。

※サステナビリティボンド・フレームワーク及び第三者評価（セカンドオピニオン）の詳細については、東京メトロ公式ホームページからご確認ください。

URL : https://www.tokyometro.jp/corporate/ir/c_bond/index.html

【参考】東京メトロの SDGs への取組み

東京メトログループは、首都東京の都市機能を支える交通事業者として重要な役割を担っており、その使命をしっかりと果たすことが東京のさらなる発展と持続可能な社会の実現につながるものと考えています。こうした考えのもと、各種施策に挑戦していくことを通じて、グループ理念「東京を走らせる力」を実現し、SDGs の達成に貢献します。

東京メトロプラン 2021 と SDGs



サステナビリティ経営をより一層推進していくため、東京メトログループのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の特定に向けて、社長を議長とするサステナビリティ推進会議で議論を進めており、2020年秋までにサステナビリティ経営の方針を公表する予定です。

SDGs への取組みや社会環境活動の詳細は、「社会環境報告書 2019」をご覧ください。

URL : <https://www.tokyometro.jp/corporate/csr/report/index.html>